



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう

解答例



2022年 2月16日 夕刊

記事を読んで、問いに答えましょう。

雪なし県 育て冬季の星

4大会連続 五輪に県勢

杉本や三木活躍

連日、日本勢の活躍に沸く北京冬季五輪。本県からもフリースタイルスキー男子モーグルの杉本幸祐(27)やデューパーはやしや、袋井市出身の、スノーボード女子パラレル大回転の三木つばき(18)やAT&ER、掛川市出身の入賞に迫った。雪が降らず、通年スケートリンクもない中で県勢の出場は4大会連続。温暖真のハンディをはねのけようと選手や関係者が奮闘を続けている。

逆境挑む選手 先輩姿励み

県スキー連盟によると、現在の登録選手数は約60人と最盛期の半数以下。国体の最後の入賞は2013年までで、このほろが、夏季は陸上トレーニング、冬季は国体や中学校、高校の全国大会に合わせて県外のスキー場で合宿を行うなど、根気強く強化を継続する。今季は国体スキーの少年男子クロスカントリに青木颯汰選手(15)や焼津小川中3年IIが出場する。本県が同種目の少年男子に選手を送り出す



のは初めて。青木選手は中学入学時に北海道から焼津市に転居。県連盟関係者がサポートし、三重県の練習会に参加するなど手探りで取り組む。静岡から五輪の雪上競技に出場した2人の活躍は大きな励み。トレーニングを工夫し、高校でもクロスカントリを続けたい」と意気込む。ショートトラックで2人のオリンピックを輩出したスピードスケートは、「100人近い選手がいた時期もあったが、今は6、7人程度」(宮下一英県スケート連盟副会長)と競技人口の先細りが進む。

2010年バンクーバー五輪から3大会連続出場した伊藤藤由子(浜松工高出)が所属した浜松スピードスケートクラブでは後輩たちが練習に励む。浜松市立高2年の矢崎結美選手(17)は今年の国体少年女子ショートトラック2種目で準々決勝に進んだ。一年中滑れるリンクがなくとも世界で戦った先輩がいる。同じ環境で強くなりたい」と逆境に挑んでいる。(運動部・山本一真)



練習に励む浜松スピードスケートクラブの選手II7日、浜松市東区の新松スポーツセンター
クロスカントリスキーの青木颯汰選手。同種目の国体少年男子に県勢として初出場するII2021年3月、富山県

①見出しの「雪なし県」とは、静岡県のどのような環境をいいますか。

((例) 雪が(ほとんど)降らず、通年スケートリンクもない環境)

②静岡県から冬季五輪に出場したことがあるのはどんな競技の選手ですか。

((例) フリースタイルスキー男子モーグル、スノーボード女子パラレル大回転、スピードスケートショートトラック)

③冬季スポーツに取り組む際に、「雪なし県」だからこそ得られるものを考え、書きましょう。

((例) ハンディをはねのけようとする努力が逆境を力に変える強さを生むのではないかな。逆境に挑んで世界で戦った先輩を励みに、練習を工夫していけるのではないかな。奮闘を続ける選手や関係者に対する尊敬や応援が集まるのではないかな。)

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(小学校高学年～中学校/保健体育、道徳、総合)

年 組 名前